高知県立あき総合病院
Aki General Hospital

私たちは高知県東部地域とともに歩み、
人々の心とからだの健康を支えていきます。

広報誌

ひだまり plus

37

TAKE FREE

2026年秋号



※この写真はイメージです。実際の手術ではありません。

特集

泌尿器科診療の「いま」と「これから」

外来診療一覧表

日本医療機能評価機構
認定第 JC2084 号

背景ありの表示は再診の予約患者さんのみですのでご注意ください。また、精神科と禁煙外来は完全予約制となっています。
医療機関の方へ…金曜日午後の脳神経外科と月曜日、木曜日午後の神経内科については、初診の予約を受け付けています。
下記の診療一覧表は令和8年9月1日時点のものです。手術や出張等により予定が変更となる場合がございます。どうかご了承ください。
●午前受付／8時30分～11時30分　●予約変更／14時～16時

診療科		時間＼曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
A外来	外科	午前	初診外来		診療応援	吉本皓一	初診外来	
			前田博敦	山本盛雄		山本盛雄	前田博敦	
			山本盛雄			ストーマ外来		
	呼吸器外科	午後				応援医師		
	形成外科	午前			高知大医師			
		午後				高知大医師		
	脳神経外科	午前	山本 真梨子		岡田憲二			
		午後	山本 真梨子		岡田憲二		高知大医師	
			岡田憲二					
	胸部・心臓血管外科	午後				三浦友二郎(第1･3･5)		
						応援医師		
B外来	内科	午前	森尾真明	江田雅志	森尾真明	森尾真明	江田雅志	
			的場 俊	井萱俊希	江端希澄	的場 俊	井萱俊希	
			大髙泰幸	的場 俊	安倍秀和	高知大医師	高知大医師	
			江端希澄	壁谷沙世実		江端千尋	岡本 修	
	消化器内科	午前(午前10時までの受付)	大﨑純子		高知大医師		大﨑純子	
		午後	大﨑純子		高知大医師			
	呼吸器内科	午前			窪田哲也		平川慶晃	
		午後		高知大医師	窪田哲也			
	循環器内科	午前	桑原昌則	古野貴志	倉岡駿太郎	林 佳世	古野貴志	
		午後	高知大医師	ペースメーカー外来		桑原昌則	倉岡駿太郎	
	神経内科	午後		吉本大治		橋本 侑		
	整形外科（リウマチ科）（リハビリテーション科）	午前（午前11時までの受付）	今里滋宏	桑原俊樹	市川徳和(月1回)		桑原俊樹/戸田愛巳	
					南場寛文			
			南場寛文	南場寛文	今里滋宏			
			初診外来	戸田愛巳	初診外来		初診外来	
	血液内科	午前			高知大医師		高知大医師	
C外来	小児科	午前	篠田知周	篠田知周	篠田知周	篠田知周	篠田知周	
			前田賢人	前田賢人	前田賢人	前田賢人	前田賢人	
		午後（受付14時30分～16時）	篠田知周	乳児健診	篠田知周	予防接種	篠田知周	
			前田賢人		前田賢人		前田賢人	
	小児循環器	午後（受付14時30分～16時）			高知大医師(第3)			
	小児外科	午後		伊勢一哉(第1･3･4)				
	耳鼻科	午前	西山正司		西山正司	西山正司	西山正司	
			小佐井 創		小佐井 創	小佐井 創	応援医師	
		午後	西山正司	西山正司	西山正司		西山正司	
			小佐井 創	小佐井 創	小佐井 創			
	皮膚科	午前	三好 研	三好 研	植弘愛美	三好 研	植弘愛美	
		午後（受付13時～15時20分）			三好 研			
D外来	泌尿器科	午前		辛島 尚	水谷圭佑			
				水谷圭佑	島﨑 将			
		午後（受付14時～15時30分）	辛島 尚	辛島 尚	水谷圭佑	辛島 尚	辛島 尚	
			小原教博	水谷圭佑	島﨑 将	島﨑 将	水谷圭佑	
				小原教博	小原教博		小原教博	
	産婦人科	午前	岡田眞尚	池上信夫	岡田眞尚(産科)	池上信夫	岡田眞尚	産科(第2･4)
			池上信夫	応援医師	池上信夫		池上信夫(産科)	
		午後（受付14時～15時30分）	岡田眞尚	1カ月検診			岡田眞尚	
							池上信夫(産科)	
			母乳外来					
	眼科	午前	吉田和之	吉田和之	吉田和之	吉田和之	吉田和之	
			西山 萌華	西山 萌華	西山 萌華	西山 萌華	西山 萌華	
		午後（受付14時～15時30分）	吉田和之		吉田和之		吉田和之	
			西山 萌華		西山 萌華			
E外来	精神科（完全予約制）	午前 新患	赤川美貴	赤川美貴（10：30～再診患者のみ）	津曲雄生	谷脇 肇	徳岡雅嘉	
		午前 再診	徳岡雅嘉	津曲雄生	赤川美貴	徳岡雅嘉	津曲雄生	
			谷脇 肇	谷脇 肇	徳岡雅嘉	津曲雄生	赤川美貴	

高知県立あき総合病院
Aki General Hospital
TEL.0887-34-3111
〒784-0027 高知県安芸市宝永町3-33

広報誌「ひだまり＋」のバックナンバーはこちらから
https://akihp.jp/hidamari/index.html

特集

身近な悩みから、専門的な治療まで、地域で支える。

泌尿器科医師たちの情熱と描く未来

あき総合病院の泌尿器科 その一番の強みとは？

辛島　一言で表すなら「院内完結型医療の体制が充実している」ということでしょう。高知市内の大病院へ通院しなくても、地域の拠点病院である当院で精査・手術・アフターフォローまでを完結できる。この部分が私たちの何よりの強みだと思います。

小原　そうですね。大病院などでは分業が進んでいるケースも多いですが、当院では外来でまず患者さんとお会いし、そこから必要な検査や診断を行い、手術、そして術後のフォローや退院後の生活まで一貫して関わることができます。これは患者さんからしても、一番メリットを感じられる部分ではないでしょうか。



水谷　医師の立場で考えても、とても充実した環境だと思います。入院中だけでなく、患者さんの背景や、退院後の暮らしまでしっかり見えてきますので、「治療して終わり」ではなく、お一人おひとりの生活や人生に寄り添える。そういう医療に携われることに、私自身も大きなやりがいを感じています。

島崎　患者さんと伴走している感覚が生まれますよね。当科では地域のニーズに対して、最新の医療機器を導入するなどハード面での強化も行っていますが、やっぱり患者さんと顔が見える関係性を築くというソフト面も同じくらい大切で、「お互いが見える環境」があるからこそ、できる医療があると感じています。

高齢化社会が抱える「3大疾患」泌尿器科が目指す医療体制

小原　高齢化が進む地域柄もあり、当院の泌尿器科では「排尿障害（前立腺肥大症や過活動膀胱）」、「尿路感染症」、「尿路結石」からなる”3大疾患”のニーズが非常に高いです。これまで当科が積み重ねてきた臨床・研究の経験を活かし、高度で安全な医療を提供できるよう努めています。

島崎　このような背景から、当院では昨年から、尿路結石に対するレーザーを用いた内視鏡による低侵襲手術をスムーズに行える体制を本格的に整えました。現在では近隣の医療機関からの紹介件数も大きく増え、治療成績も非常に安定しています。

辛島　さらに本年から、難治性の過活動膀胱に対する「ボトックス膀胱壁内注入療法」など、新しい治療選択肢も積極的に導入しています。時代の変化や医療技術の進化に合わせ、地域のみなさんに最新の治療を届けていきたいと考えています。

女性も気軽に通える これからの泌尿器科

水谷　”泌尿器科”というと、「男性の性病科」といったイメージがあって、受診を躊躇される女性の方は少なくないと思うんです。実際、女性の患者さんからは、「症状があっても最初の一歩が踏み出しにくかった」、「どこに相談していいかわからなかった」というお声をよく耳にしています。

辛島　そうした固定観念や心理的ハードルは、ぜひ払拭したいですね。尿漏れや過活動膀胱、頻尿などは、女性に多く見られるお悩みです。当院では2ヶ月に1回程度、応援の女性医師による外来診療日を設けるなどして、女性患者さんでも安心してご来院いただける環境づくりを推進しています。

小原　「おしっこの悩みくらいで受診するのは恥ずかしい」と我慢して悪化させてしまうケースもありますが、早い段階でご相談いただければ、お薬や簡単な処置など身体への負担が少ない方法で劇的に改善することも多くあります。性別や年齢を問わず、気になる症状があれば遠慮せずにご相談いただきたいです。



今後の展望と地域のみなさまへ

小原　泌尿器科としては、あき総合病院内だけでなく、地域の開業医の先生方とも緊密に連携を取りながら、地域全体の医療レベルや安心感を高めていきたいと考えています。目指しているのは、「あき総合病院の泌尿器科に任せれば安心だ」と地域の住民の皆様から信頼される拠点となることです。

島崎　結石治療をはじめ、これまで地域外の大病院へ通わなければならなかった治療も、当院でしっかり対応できるようになっています。今後も紹介ルートの拡大や迅速な受け入れ態勢を維持・強化し、地域医療に貢献していきます。

水谷　どんな小さな悩みでも受け止められる、温かく親しみやすい診療科でありたいと思っています。

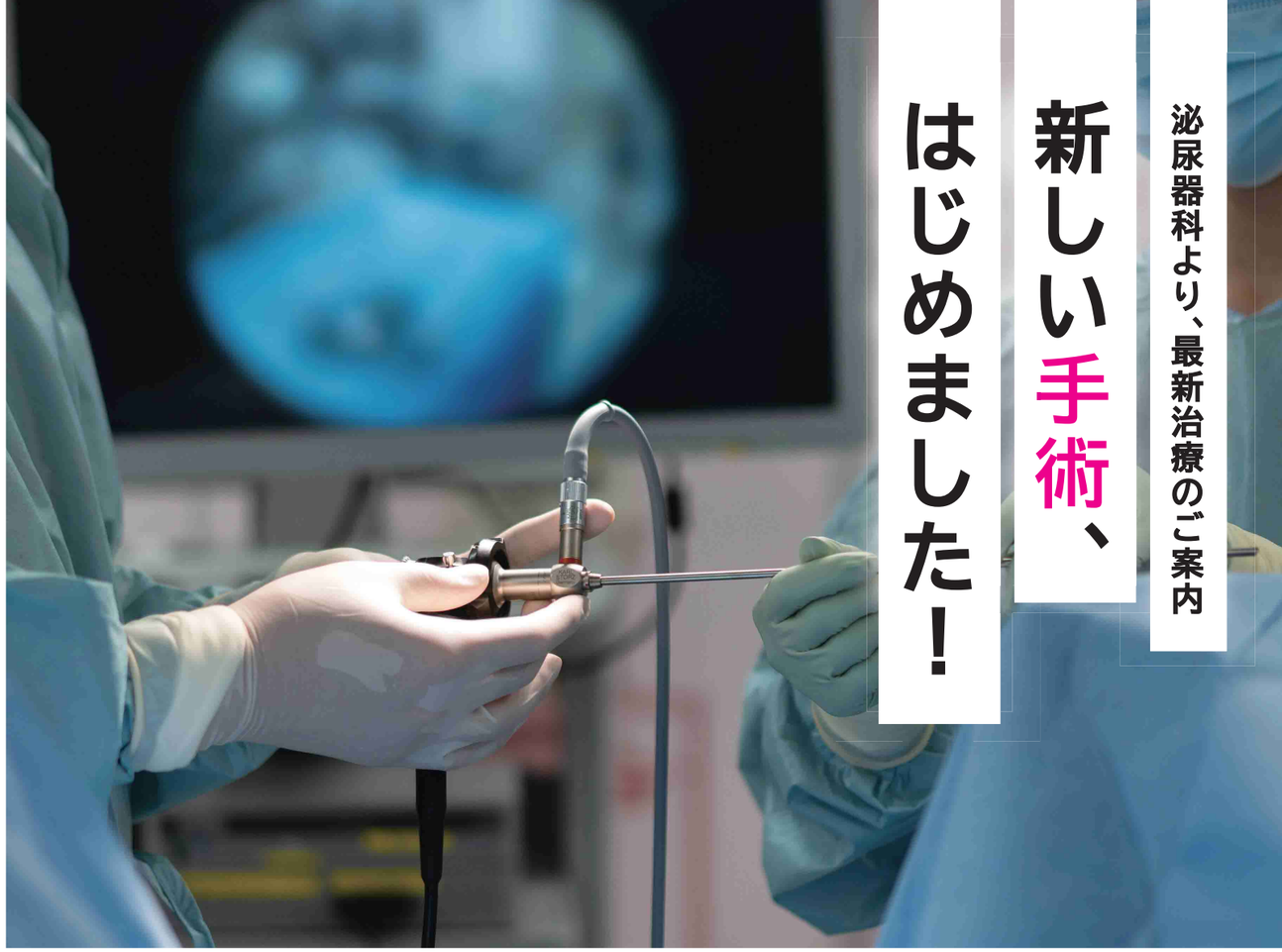
辛島　質の高い医療と確かな手術実績、そして通いやすい環境を整えてお待ちしています。お困りの際は、どうぞお気軽にご相談ください。



恥ずかしい、行きづらい
受診の不安を
安心に変えられる
泌尿器科へ

泌尿器科より、最新治療のご案内

新しい手術、はじめました！



前立腺肥大症の手術

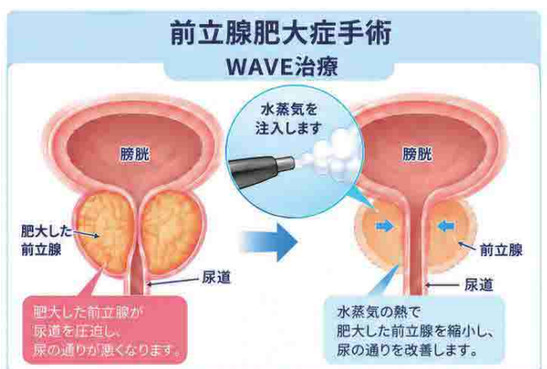
「最近、尿の勢いが弱くなった」「トイレに行く回数が増えた」「夜中に何度もトイレに起きる」「尿が残っているような感じがする」――このような症状に心当たりはありませんか？

これらの症状は、男性にみられる「前立腺肥大症」が原因かもしれません。前立腺は膀胱の出口付近にある男性特有の臓器で、年齢とともに大きくなることがあります。前立腺が大きくなると尿の通り道である尿道が圧迫され、尿が出にくくなったり、頻繁にトイレへ行きたくなったりします。

当院では、この前立腺肥大症に対する新しい治療法として、「WAVE治療（経尿道的水蒸気治療）」を開始しました。

WAVE治療は、尿道から専用の器具を入れ、肥大した前立腺に水蒸気を注入する治療です。水蒸気の熱エネルギーによって前立腺の組織を小さくし、時間の経過とともに尿の通りを改善していきます。手術時間は10分程度であり、従来の手術と比べて身体への負担が少ないことが特徴の一つです。そのため、お薬による治療で十分な効果が得られない方や、従来の手術には抵抗がある方にとって、新たな治療の選択肢となります。ただし、前立腺の大きさや形、症状の程度、健康状態などによって、本治療が適さない場合があります。

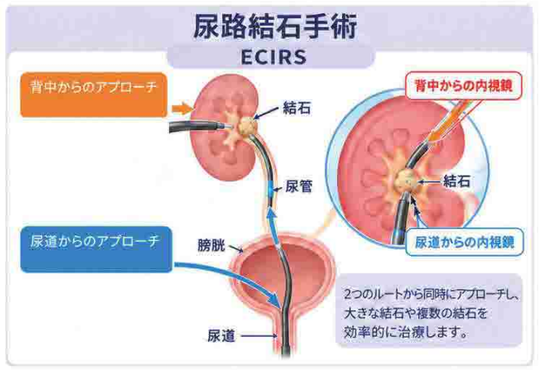
尿に関する症状は「年齢のせいだから」と我慢してしまう方も少なくありません。しかし、適切な治療によって症状の改善が期待できる場合があります。気になる症状がある方は、どうぞお気軽にあき総合病院泌尿器科へご相談ください。



尿路結石の手術

現在、尿路結石の治療は、体の外から衝撃波を当てて石を砕くESWL（体外衝撃波結石破砕術）という治療法と、尿道から細いカメラ（内視鏡）を入れ、結石を直接砕いて取り除くTUL（経尿道的尿管結石破砕術）があり、原則おなかを切る手術は行いません。ESWLは日帰りや短い入院で手軽に受けられるのがメリットですが、大きな石や硬い石は苦手であり、砕けた石が自然に排出される保証はありません。そのため現在は、結石を確実に破砕・回収できる、TULが主流となっています。TUL手術は全身麻酔をかけて行うため、術中に痛みを感じることはありません。時間は1～2時間ほどで、数日の入院が必要です。

2025年10月から、あき総合病院では新しいレーザー機器の導入に伴いTUL手術を開始し、すでに 35件の手術を安全に行っております。さらには、背中から小さな穴を開けて上からの内視鏡と、尿道から入れる下からの内視鏡「2つのカメラ」を同時に使い、難易度の高い結石を効率よく砕くECIRS（経皮・経尿道的同時内視鏡手術）という最新の手術も始めています。これまでのように高知市内の病院に通院・入院する必要がなくなりました。東部地域の尿路結石治療が変わります！

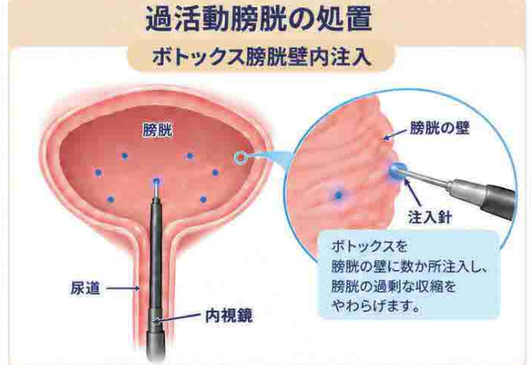


過活動膀胱の手術

「トイレが近くて間に合わない」。こんな症状でお困りの方は多いのではないでしょうか。あなただけではありません。日本国内だけで約1千万人が同じ症状で悩まれています。これは過活動膀胱といわれ、立派な病気です。現在では、とても有効なお薬が数多くあります。

しかし、一部の方はお薬の効果が思わしくなかったり、副作用でお薬が使いづらい場合もあります。そんな難治性の過活動膀胱にたいして、あき総合病院では「ボトックス膀胱壁内注入療法」という手術療法を始めました。過度に収縮する膀胱の筋肉に、内視鏡を使ってボツリヌス毒素（ボトックス）を直接注入することで筋肉を弛緩させ、尿意切迫感や頻尿、尿失禁といった症状を和らげます。治療後数日で効果が現れ、一般的に6ヶ月ほど持続します。効果が薄れた場合は再度の注入も可能です。もちろん保険適用の治療法です。

手術と聞くとハードルが高いように感じると思いますが、短時間で終わり、体の負担も少ない手術ですので、気軽にご相談ください。



症状セルフチェック

泌尿器の病気は、早期に発見・治療を行うことで、体への負担が少ない手術や短期の治療で改善を目指せます。快適で健康な毎日を守るために、当てはまる症状がないか確認してみましょう。

- 排尿時の痛み
- 血尿が出る
- 尿が出にくい
- トイレが近い
- 陰部の腫れやしこり
- 勃起しにくい

気になる症状がある方は、まずは一度ご相談ください。
当科では患者さんのお悩みやライフスタイルに合わせ、お薬での治療から負担の少ない手術まで、最適な治療法をご提案いたします。

透析を支える血管を守る

シャントPTA始めました

当院泌尿器科では、血液透析を受けられている患者さんの"命綱"ともいえる内シャントのトラブルに対し、カテーテル治療である「シャントPTA（経皮的血管拡張術）」を新たに導入いたしました。

シャントは、血液透析を行うために必要な大切な血管です。透析では、このシャントに針を刺して血液を体外に取り出し、透析装置できれいにした後、再び体内に戻します。そのため、シャントの血流を良好な状態に保つことは、安定した透析治療を続けていくうえでとても重要です。

長年の透析治療に伴い、シャント血管が狭くなる「狭窄」や、血管がつまって血液が流れにくくなる「閉塞」といったトラブルは避けて通れない課題です。シャントの血流が悪くなると、十分な透析が行いにくくなることもあるため、早めに異常を発見し、適切に対応することが大切です。

当院では、局所麻酔下で細い風船のついたカテーテル（バルーンカテーテル）を血管内に挿入し、狭くなった部分を内側から広げることで、血流の早期再建を図ります。治療後は、シャントの血流が改善しているかを確認し、その後も透析を継続できるよう管理していきます。

シャントPTAは、従来の外科的再建に比べて、体への負担が極めて小さく、日帰りや短期入院での治療が可能です。できるだけ患者さんの負担を抑えながら、現在使用しているシャントを長く維持していくことを目指します。また、地域の透析クリニックや近隣医療機関とも密に連携し、患者さんが安心して日々の透析を継続できるよう、迅速なトラブル対応と長期的なアクセス管理に努めてまいります。

シャントの音がいつもと違う、腫れや痛みがあるなど、普段と異なる変化を感じた際は、早めにご相談ください。



シャントとは？

血液透析を行うために、腕の動脈と静脈をつないでつくる透析用の血管です。透析では、このシャントに針を刺して血液を取り出し、きれいにして体に戻します。

なぜ動脈と静脈をつなぐの？

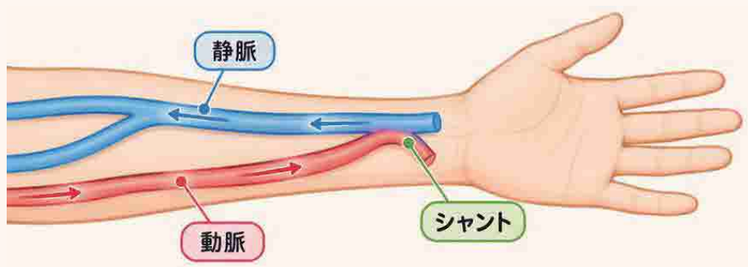
透析では、たくさんの血液を取り出してきれいにする必要があります。動脈の豊富な血流を静脈に流すことで、静脈を太く丈夫にし、透析に使いやすい血管にします。

どうやってつくるの？

多くは、ご自身の動脈と静脈を小さな手術で直接つなぎます。血管の状態によっては、人工血管を使うこともあります。

シャントを守るために

シャントは、長く使っていくために日々のケアと定期的なチェックが大切です。気になることがあれば、早めに医療スタッフにご相談ください。







透析室紹介

- ●透析ベッド　15床（うち個室1床）
- ●透析日　月～土曜日（祝日も実施）
- ●透析時間　1回4～5時間程度
- ●スタッフ　医師（泌尿器科と兼任）・看護師・臨床工学技士

Q1. どんな方が透析を受けていますか？

A 腎臓の働きが低下し、体の中の余分な水分や老廃物を十分に排出できなくなった方に、透析治療を行っています。

Q2. 透析中はどう過ごすの？

A テレビを見たり、本を読んだり、眠ったり。
患者さんそれぞれのスタイルで過ごされています。

Q3. 患者さんが安心して透析を受けられるよう、気を付けている事はありますか？

A 患者さんからの訴えだけでなく、表情や体調の変化にも気を配りながら声かけを行っています。

Q4. 体調管理や日常生活について、どのような支援を行っていますか？

A ご自宅での血圧や体重を記録していただき、定期的な血液検査の結果とあわせて確認しています。食事や生活についてもお話を伺い、必要に応じてアドバイスしています。

Q5. 透析室の見学はできますか？

A 見学できます。透析について不安なことや疑問に思うことがありましたら、お気軽にご相談ください。



診療科紹介

泌尿器科チームのご紹介

あき総合病院を力強く支える、泌尿器科医師＆応援医師

非常勤医



外来診療（月1回）
井上 啓史医師
いのうえ けいじ

高知大学医学部泌尿器科学講座の主任教授であり、高知大学医学部長も兼任する、高知県の泌尿器科医療全体を牽引するリーダーです。以前、当院に勤務していた経緯から、当院に対する思い入れも深く、毎月外来診療に訪れています。

常勤医



泌尿器科 副医長
水谷 圭佑医師
みずたに けいすけ

大学病院や県内急性期病院を経て、昨年より当院に勤務しています。内視鏡手術を中心に「高知県東部地域の医療を安芸で完結させる」べく奮闘中です。出身は北海道ですが、実は寒さが大の苦手。それでもウインタースポーツは得意という一面を持っています。

常勤医



泌尿器科 部長
辛島 尚医師
からしま たかし

高知大学病院で30年間、泌尿器科がんの手術と薬物療法を専門に最前線で診療と研究を重ね、昨年当院の泌尿器科部長に着任しました。高知の自然を愛する自称「ナチュラリスト」で、今年は地元の川で、試行錯誤を重ねながら鮎釣りを満喫しています。

非常勤医



透析科診療（週2回）
安田 雅春医師
やすだ まさはる

長年にわたり、当院の泌尿器および透析医療を牽引してきたレジェンドDrです。定年退職を迎えられた後も、週に2回、継続して透析科の診療を行っています。今も当院を陰ながら力強く支えている、まさに「縁の下の力持ち」といえる存在です。

常勤医



泌尿器科 主査
小原 教博医師
おはら たかひろ

高知県四万十市出身。25年ぶりに愛着ある地元へ戻り、2026年4月より当院に勤務しています。地域の皆様に信頼される「丁寧で安心できる診療」をモットーに、泌尿器科の経験豊富な諸先輩方に手取り足取りご指導を受けながら、日々研鑽に努めています。

常勤医



泌尿器科 主査
島﨑 将医師
しまさき しょう

2022年に高知大学を卒業し、今年4月より当院泌尿器科に勤務しています。「地元高知に貢献したい」という思いのもと、専門医取得を目指して日々診療に励んでいます。安芸の新鮮な野菜が大好物で、休日は地元の美味しい居酒屋巡りなどを楽しんでいます。

非常勤医



外来診療
（2ヶ月に1回）

女性泌尿器科医師による、外来診療を行っています。診療日は不定期のため、お電話でお問い合わせ下さい。





チームで支える「安心の排尿ケア」

排尿自立支援のご案内

排尿自立支援について

排尿自立支援とは、病気やけが、加齢、体力や筋力の低下などによって、トイレでの排尿が難しくなった方が、できるだけご自身の力で、安心・安全に排尿できるように支援する取り組みです。排尿は毎日の生活に欠かせない大切なことです。排尿に関する困りごとを少しでも減らし、ご本人らしい生活を送ることを目指します。

まず、排尿の回数や時間、尿の量、尿もれの有無、夜間の排尿状況などを確認します。また、トイレまでの歩行、立ち座り、衣服の上げ下げ、便座への移乗など、排泄に必要な動作についても確認します。その結果をもとに、医師、看護師、リハビリスタッフなどが協力し、一人ひとりの状態や希望に合わせた支援を行います。

支援の内容は、トイレへ行く時間を整えること、水分のとり方を見直すこと、排泄に必要な筋力の強化や動作を練習すること、薬の内容を確認すること、トイレまでの環境を安全に整えることなどです。必要に応じて、尿器やポータブルトイレなどの排泄用品を活用することもあります。

「自分でトイレに行きたい」「夜間の排尿を減らしたい」「尿もれが心配」など、排尿について気になることや希望があれば、どんな小さなことでも遠慮なくスタッフにお伝えください。

できることから無理なく一緒に取り組み、安全で快適な排尿と、その人らしい生活を目指していきましょう。



病院からのお知らせ

がんのこと、ひとりで悩まずご相談ください



がん相談支援センターをご存じですか？

当院では、がん患者さんやご家族、地域のみなさまから、がんに関するさまざまなご相談をお受けしています。看護師や医療ソーシャルワーカーが、お話を伺いながら必要な支援や情報につなぎます。ご本人はもちろん、ご家族だけ、地域にお住まいの方だけでもご利用いただけます。

こんなご相談をお受けしています

- 治療や検査について
- セカンドオピニオン
- 療養中の不安や心配
- 在宅療養の制度や支援
- 医療費や生活費について
- その他、がんに関すること

相談は無料・予約不要

相談時間	月ー金曜日 8:30-17:15 （祝日・年末年始を除く）
場　所	1階 がん相談支援センター （地域連携センター内）
お電話	0887-34-3111 ※ご来院・お電話どちらでも
担　当	専任看護士 医療ソーシャルワーカー

ご相談内容の秘密は守られます。



がん相談支援センターはこちら

1階・地域連携センター内
正面玄関近くの「8」が目印です

がん患者さん・ご家族の交流の場

がんサロン「ゆずの会」



日頃の思いや体験などを、同じ立場の方と語り合える交流の場です。
話してみたい方、話を聞いてみたい方のご参加をお待ちしています。

今後の開催予定

2026年 **11月19日** 木
呼吸のリハビリについて

2027年 **2月18日** 木
がんの痛みに使う薬について

対 象 がん患者さん・ご家族　時 間 13:30-14:30

5月・8月・11月・2月の第3木曜日に開催しています。

お問い合わせ／0887-34-3111（代表）

発行元／高知県立あき総合病院　〒784-0027 高知県安芸市宝永町3-33　TEL.0887-34-3111（代表）　FAX.0887-34-2687
発行責任者／前田 博教（院長）　発行月／令和8年10月　企画・編集／広報企画・HP企画部委員会



薬剤師さんに聞く お薬のはなし

過活動膀胱のお薬と水分の上手なつきあい方

夏が過ぎ去っても暑さが続く日が多く、汗をかく機会も少なくありません。「夜間に何度もトイレへ行く」「尿もれが心配」といった理由で、水分を控えている方もいらっしゃいます。しかし、必要以上に水分を制限すると脱水を起こしやすくなり、熱中症や便秘、尿路感染症などのリスクが高まります。また、尿が濃くなることで膀胱が刺激され、かえって尿意を感じやすくなることもあります。過活動膀胱の症状が気になる方でも、水分を極端に我慢するのではなく、適度な水分補給を心がけることが大切です。

過活動膀胱は、「急に強い尿意を感じて我慢できない」「トイレが近い」「夜中に何度もトイレに起きる」などの症状がみられる病気です。年齢とともに増える傾向がありますが、適切な治療によって症状の改善が期待できます。

治療には生活習慣の見直しとともに、お薬が用いられます。代表的なお薬には抗コリン薬とβ3（ベータ3）アドレナリン受容体作動薬があります。抗コリン薬は膀胱の過剰な収縮を抑えて尿意を和らげますが、口の渇きや便秘などの副作用がみられることがあります。一方、β3アドレナリン受容体作動薬は膀胱をリラックスさせて尿をためやすくするお薬で、口の渇きや便秘は比較的少ないとされていますが、動悸や血圧の変化に注意が必要な場合があります。

これらのお薬は、飲み始めてすぐに十分な効果が現れるとは限らず、効果を実感するまで数週間かかることもあります。自己判断で服用を中止すると症状が再び悪化することがありますので、医師の指示どおりに続けることが大切です。また、お薬はコップ1杯程度の水またはぬるま湯で服用しましょう。コーヒーやアルコールで服用すると、薬の作用に影響を与える場合があります。

過活動膀胱の治療では、お薬だけでなく、適切な水分摂取やカフェイン・アルコールの摂り過ぎを控えること、膀胱訓練や骨盤底筋体操なども症状の改善に役立ちます。

「年齢のせいだから仕方ない」とあきらめず、気になる症状がある方は医師や薬剤師へご相談ください。一人ひとりに合った治療を続けることで、毎日をより快適に過ごすことができます。

薬剤科 **今井 英雄**

季節の二字熟語クロスワード

□のなかに漢字を一つ入れて、タテ・ヨコの二字熟語を完成させよう！

問1

	新	
白	？	飯
	粒	

問2

	名	
満	？	見
	夜	

答えは、病院ホームページの新着Newsを確認！
https://akihp.jp/index.html

新□　白□　□飯　□粒

名□　満□　□見　□夜